



No.79 日本でイノベーションは起きるのか(その2)



参考 : <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCD131KR0T11C21A2000000/>

戦後しばらく、変化対応レースのトップグループにいた日本は、いまや最後尾にいて周回遅れの状態に気づかずトラックを走っている…

このような私の現状認識に共鳴していただける方は多くないかもしれません。しかし20年前クリステンセン教授の著書「イノベーションのジレンマ」の日本語版序文で、すでに喝破されていたとも言えます。

「本書の理論から考えて現在のシステムが続くなら、日本経済が勢いを取り戻すことは二度とないかもしれない。(p.x)」

日本で新しいものが次々に生まれた最もイノベティブな時代は、明治初期と戦後初期だったのではないのでしょうか。

その要因と思われる第一は過去の秩序の破壊です。

250年のしがらみを江戸末期のテロリストと薩長反乱軍は一掃しました。また戦中戦後のアメリカ軍は物理的に国土を破壊しただけでなく、お上の統治思想・統治機構を破壊しました。イノベーターが新しい社会を作るのを既存勢力に邪魔されることがなかったのです。

第二は危機意識の共有です。

黒船がやってきてアジアが次々に植民地になるのを目の当たりにして、多くの人がこのままではダメだと思った、また戦後の焼け跡で生きていくには何でもやるしかないと思い一人一人が逞しくなった、そんな時、国民の上向きのパワーが一気に解放されたのではないかと思います。



谷口博文の政策イノベーション

Date :2022年1月3日

今の日本人の大多数は今に満足し、今あるものを守ることが大事で、破壊はよくないと思っています。その状態で日本は世界の加速度的イノベーションの時代に対応できるのでしょうか。

「黒船はもう来ない！」という本があります。アフラック会長のチャールズ・レイク氏が12年前、日本は外圧によってではなく自律的に自己変革する時だと警鐘を鳴らしました。やるべきことがわかってもできないのは、反対者がいるから民主主義だからできないのではなく、実行力がないだけ。過去のしがらみや既得権をひっくり返すには説得力、発信力、知力、政治力・・・、革命にも匹敵するものすごいエネルギーが必要です。

自分の目で世界がどう動いているかを見据え、やるべきことを考え、エネルギーを惜しまずに実行するしかありません。
ではやるべきこととは何でしょう・・・(つづく)